

石川県能登島ガラス美術館だより 第12号

■ガラスの話 2005年夏期開催「華麗なるヴェネチアン・ビーズの世界」展から

ヴェネチアは、13世紀から17世紀までヨーロッパのガラス工芸を飛躍的に発展させた都です。ガラス・ビーズにおいても、3万色ともいわれる色ガラスのバリエーションと熱せられたガラスを瞬時に成形する技術によって色彩豊かな装飾ビーズを作り上げたことで知られています。ヴェネチアでは、11世紀頃よりガラス・ビーズの生産が行われていたが、今日知られているものが盛んに生産されるようになったのは、17世紀に入ってからのことです。それまで独占していた東方貿易体制がスペイン、ポルトガル、イギリス、オランダによって崩壊し、ガラス器の市場もクリスタルのように透明な

ボヘミアン・ガラスに奪われたため、新たな市場を求めて独自のビーズを生み出しました。とくにアメリカ交易用のヴェネチアン・ビーズは、アフリカの人々の肌に合うように鮮烈で力強い色彩のものが作られました。代表的なものにムッリーネ・ビーズが挙げられます。ムッリーネ・ビーズは、あらかじめ断面が花柄模様になる色ガラス棒を輪切りにして作ったチップ（ムッリーネ）を加飾に用いたビーズです。銅



「アフリカ交易用ビーズ」北陸能登島美術館所蔵

■収蔵作品の紹介

「ラスト・ダンス」 トゥーツ・ジンスキー 1992年
アメリカの作家、トゥーツ・ジンスキーの色彩豊かなオブジェを紹介。作者は、糸状にした色ガラスを重ねてゆき、熱した炉に入れてガラスを溶かしつけて器状の造形にするという独特の方法で作品を制作しています。



「ラスト・ダンス」1992年

「ラスト・ダンス」は、いくつもの色ガラスの中に、黒いガラスが所々にアクセントに入っています。華やかな中にも、どこかもの悲しい雰囲気を感じさせる作品です。作者の作品を特徴づける“色彩”は、イタリアのガラス工房から取り寄せた色ガラスによります。これを作者の知人が開発した機械で引き伸ばし、極細の糸状ガラスにして使います。数種類もの色のストックがあり、濃い原色のガラスはエネルギーに、薄い色合いのガラスは幻想的な雰囲気に、重なり溶け合った色ガラスの糸が、作品一つ一つに個性をもたせます。もともとと大学で絵画を専攻していた作者は、構内で見かけたガラスコースの活気に惹かれてガラスを始めました。しか

■インフォメーション

ガラス シリカ ミュージアムショップ GLASS SILICA

ショップの名前“シリカ”とは、ガラスの原料を意味する言葉。店内はガラス・アイテムでいっぱいです。

スタッフに聞いた おすすめ商品

雪どけグラス ¥2,420-
数あるグラスの中で、つい目がいってしまうグラス。いろんな飲み物を素直に受け入れて、その時々で雰囲気を変えてくれるような気がします。(YT)



ルームランプ ¥4,720~
お部屋のアクセントにランプはいかがですか。エミール・ガレ風やティファニー風のランプがリーズナブルな価格で買い求めいただけます。(RO)



ミニチュアガラス ¥250~
思わず微笑みたくなるかわいいガラス。イヌやネコなど動物たちに混ざって、これ何？と、つっこみを入れたくなる不思議な生き物もいますよ。(EH)



レストカフェ 玻璃

海と庭園が一望できる喫茶室。能登島の四季折々の風景を眺めながら、時間を過ごしてみたいいかがでしょう。席数：35席 ラストオーダー：閉店の30分前まで



スタッフに聞いた おすすめメニュー

ケーキ各種 ¥450-
たくさん種類があるケーキは、どれもボリュームがあります。新入荷した“黒豆の和風チーズタルト”は、黒豆ときな粉の風味が特徴の和風ケーキです。(MT)



ピザ ¥600-
「お昼はピザ！」って言うくらい大好き。まわりはサクサク中はしっとり、とろけるチーズが食欲をそそります。ドリンク付きだと800円でお得です。(ST)



線に離型剤を塗り、ベースになるガラスを巻き付け、鉄板の上で熱しておいたチップをベースの表面に溶かし付けます。この方法では、1粒1粒手作りするのが一般的ですが、当時はこの芯の長さを30センチ程にして加飾の緻密な筒型ビーズを作る高度な技が駆使されました。アフリカの人々には、永遠の美しさをもつ魅惑的なお守りとして、熱狂的に受け入れられたヴェネチアン・ビーズは、ヨーロッパ列強に食料、象牙、金、毛皮、そして奴隷などの富をもたらしました。現在では、そのビーズが逆輸入され、高値で取引されているといえますから、ヴェネチアン・ビーズは今後も世界中の人々を魅了し続けることでしょう。(学芸員 今井恵美)

し、その一方でビデオ制作や他素材で作品を制作するなど幅広い活動も行っています。そんな中、滞在したアフリカで見た現地の人々の衣装や建物の色彩に強い衝撃をうけ、これが原点になったと作者は話しています。その後、絵画で培われた色彩表現や、フュージングと吹きガラスで試みた造形を追究しながら、カラフルなオブジェは生まれました。光をうけていっそう鮮やかな色彩を放つガラスのオブジェ。燃えさかる炎や風にそよぐ花のように、強く優しい生命感あふれた造形は、作者の人柄を映しだしているかのようです。(学芸員 床坊睦美)



「ラスト・ダンス」部分

美術館のご利用について

開館時間
9：00～17：00（12～3月は16：30で閉館）
*入館は閉館の30分前まで。喫茶室、ショップの入店も同じです。屋外庭園は、閉館後に閉園します。

休館日
毎月第3火曜日（祝日の場合翌日休、8月無休）
年末年始（12月29日～1月1日）

展示替え期間
*休館日の詳細は、直接、お問合せいただくか、当館のHPでご確認ください。
*喫茶室、ショップのみ営業の場合もあります。

入館料
個人（高校生以上）800円
団体（20名以上）700円
*中学生以下は無料となります。また、喫茶室、ショップのある棟は、入館が無料です。
*各種割引については、直接、お問合せください。

お問合せ先
〒926-0211 石川県七尾市能登島向田町125-10
TEL：(0767) 84-1175 FAX：(0767) 84-1129
<http://www.city.nanao.lg.jp/glass/index.html>



石川県能登島ガラス美術館だより 第12号
平成18年3月発行
編集・発行
石川県能登島ガラス美術館
NOTOJIMA GLASS ART MUSEUM 2006 Printed in Japan

きらめく海とガラスに出会える美術館

能登半島の内海に浮かぶ能登島。島の中央に位置する小高い丘の上に、ガラス美術館があります。丘の斜面を利用した庭園は、奥能登を遠景に穏やかな日本海を望むことができるビュースポットです。天候によって変化する海の色や、海を走る漁船やヨットの姿など、様々な海の様子を見ることができます。また、庭園には15点のガラスオブジェが点在し、四季折々の表情をみせています。海の見える庭園で、自然の中のガラスたちに出会ってみませんか。



春

夏

冬

秋

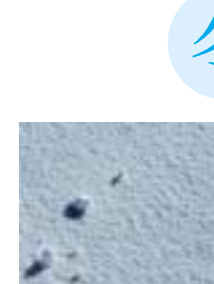


写真
春 1 春の庭園
2 サクラ
3 サツキとオブジェ
夏 1 海を走る船
2 夏の庭園
3 初夏の緑
秋 1 秋の庭園
2 夕焼けの海
3 紅葉
冬 1 雪
2 冬の庭園
3 雪と海

平成18年度の活動計画

能登島ガラス美術館は、平成18年7月29日をもちまして開館15周年を迎えます。平成18年度は、これを記念した展覧会やイベントなど多彩な催しを行うほか、ワークショップも定期的に開催します。皆様のご来館をお待ちしています。



H18の展覧会活動

● 4月22日(土)～7月17日(月・祝)

テーマ展「光で変わる！ガラスのアート」展

現代ガラスの作品は、光によって表情を変えるため、「光の彫刻」とも呼ばれています。本展では、見る位置によって変化する照明で、収蔵品の現代ガラス作品をご紹介します。

● 7月22日(土)～10月16日(月)

開館15周年記念特別展

ヴェネチアが生んだ永遠の美「レースガラスの魅力」

15世紀から18世紀にかけてヨーロッパのガラス工芸のメッカであったヴェネチア。熟練したガラス職人によって華麗なガラス器が次々と生みだされ、ヨーロッパ各地のガラスに大きな影響を及ぼしました。中でもレースガラスは、秘法中の秘法と言われ、流麗で精緻なガラスは、今もなおヴェネチアン・ガラスの伝統技法として受け継がれています。本展では、16世紀から19世紀頃にかけて制作されたレースガラスのほか、レースガラス技法を取り入れて制作活動を行っている現代作家の作品などをご紹介します。



「茶道具 皆具」藤田高平 1998年

● 10月21日(土)～1月15日(月)

企画展 現代ガラスへの招待「ファンタジー ガラスに描かれた世界」(仮題)

ガラスにペイントした作品やガラスを削って描いた作品など“描く”をテーマに、現代ガラスの技法や表現を紹介します。ガラスに描かれた幻想的な世界をご覧ください。

● 1月20日(土)～4月16日(月)

テーマ展「暗闇に浮かび上がれ！光の彫刻」(仮題)

暗い空間の中で照らし出される現代ガラス作品の神秘的な存在感をご覧ください。

H18の教育普及活動

●ガラスの世界を楽しもう！わくわくワークショップ

開催日：毎月2日間(基本的に毎月第3土曜とその次の日曜。詳細は、当館のHPをご覧ください。)ガラス素材を使ったワークショップ。お子さんからお年寄りの方までどなたでも遊び感覚で参加できます。特に予約は必要ありませんので気軽にお立ち寄り下さい。

●出張&リクエスト わくわくワークショップ

より多くの方々にガラスの世界を知っていただくため、H18年度より美術館を飛びだしてワークショップを行います。子供会、女性会の行事など、リクエストに応じて出張します。メニュー、金額等の詳細については美術館までお問合せ下さい。皆さんのリクエストをお待ちしています！(申込みは実施日の前月25日まで。現在のところ七尾市内に限らせていただきます。)

ガラス美術館を探検しよう！

開館15周年プレイベントでクイズラリーを行います。これに先立ち、美術館スタッフが美術館のみどころを紹介します。

光の展示室

入口の鉄の扉を開けると、床も壁も天井も真っ白な空間が広がります。重々しい扉からは想像のできない展示室。窓から差し込む日の光が室内を照らしだして、とっても幻想的。季節や時間帯によって、日の光は変化するので、室内の雰囲気も違えます。(NH)



ガラスの廊下はギャラリー

大きな板ガラスに囲まれた廊下は、歩くには不安定な感じがする不思議な廊下。でも、視点を変えると、ちょっとしたギャラリーにもなるんですよ。磨りガラス状に加工されていない丸い透明な窓から見える外の景色が、まるで切り取った絵のよう。(JH)



庭園は楽園

能登の穏やかな内海が望める庭園は、近所に棲むキジやタヌキなど生き物たちの楽園でもあります。晴れた日は、レジャーシートを敷いて、小鳥のさえずりを聞きながらくつろぐのもいいですね・・・*お帰りの際は、庭園の美化にご協力を！ゴミは持ち帰りましょう！(YH)



外観ビューポイント

庭園から見下ろす風景もいですが、美術館の外観を見たい方におすすめの場所は共同駐車場からの眺め。ここから、丘の上にある美術館を見上げると、ものすごく迫力があります。特に、夕方時間が一押し。太陽を背に、建物が一段と映えて見えます。(YK)



開館15周年によせて

館長 北川邦昭

以前、能登島を訪れたとき、丘の上に立つ奇抜な建物と屋外展示彫刻に自然と足を向けさせられ、館内に入って迷路のような異空間の中で、ガラス作品に興味深く鑑賞したことが思い出されます。折しも開館15周年の節目を迎えるこの時期に、三嶋前館長の後を引き継ぐことになりました。1991年7月に開館した当館は、県内外の大勢の皆様にご来館いただき、2005年12月末で154万人余に達しました。開館7年目で100万人に達した当初の勢いこそありませんが、毎年約6万人の方々にご来館いただき、当館は能登島の重要な観光文化施設であると自負しております。これからも、遠来の方々はもとより、地元の方々にも愛される美術館にしていくため、魅力ある企



画展や、解りやすい解説、広報の充実、とりわけホームページなどを活用した情報発信などに力を注いで参ります。最近では、ワークショップを毎月開催しています。今後は、この参加者の方々が広告塔となって友人、知人に当館を紹介していただき、当館のファンがさらに大きく広がることを願っています。今年の7月から10月にかけては、15周年記念特別展の開催を予定していますので、たくさんの方々にご来館いただきたいと思います。

開館15周年記念イベントのご案内

開館15周年記念・能登島ガラス美術館を楽しもう！と題して、当館のみどころを発見・再発見してもらえるイベントを開催します。

- ①「クイズでめぐる美術館ツアー」
4月22日(土)～7月17日(月・祝)
クイズを解きながら館内を巡ります。
- ②ミニ展示「ガラス美術館の建物」
4月22日(土)～7月17日(月・祝)
建築家毛綱毅曠氏の建物の見どころを紹介。
- ③「デジカメで再発見！美術館の魅力」
5月16日(火) 要申込み(先着30名)
普段は写真撮影できない館内を開放します。
- ④「まっくら美術館！探検して知るガラスの魅力」
6月20日(火) 要申込み(先着40名)
照明を落とした館内を懐中電灯で探検します。

👂 耳より情報 👂

創刊！ガラ美通信

“ガラス美術館だより”の姉妹紙となる、情報誌“ガラ美通信”を発行します！美術館で働いている受付・ショップ・喫茶・庶務係の職員が制作を担当しています。どんな印刷物なのか、ちょっと話を聞いてみました。

- Q.どんな情報が掲載されているのですか？
A.ガラス美術館で開催される展覧会、イベントや、ショップ&喫茶室の旬な情報を掲載しています。
- Q.年間どのくらい発行されるのですか？
A.春・夏・秋・冬の年4回です。
- Q.見たところ手書きのようですが・・・
A.読む方に身近に感じていただけるよう、手書きにこだわって制作しています。
- Q.どこで見ることが出来ますか？
A.主に七尾市内で配布、掲示を行います。創刊号は、4月に発行予定です。お楽しみに!!



平成17年度の活動報告

主な展覧会事業

●春季企画展

色彩のうつわ

トゥーツ・ジンスキー展

会期：2005年4月22日(金)～7月24日(日)
企画協力：株式会社ギャラリー仲摩
入館者数：16,831人

アメリカのガラス作家、トゥーツ・ジンスキー氏の作品25点を展示しました。色鮮やかな器状のガラスオブジェは、まるで展示室に咲いた花のように生命感ある輝きを放っていました。

●関連イベント

●スライドレクチャー
「ガラスを紡ぐ人 トゥーツ・ジンスキー」
日時：2005年6月18日(土) 14:00～15:30
参加者数：約70名
当日は、立ち見の方がでるほど会場は大盛況。ガラスを学ぶ学生さんなど参加者の方々は、トゥーツ・ジンスキーさんのお話しに熱心に耳を傾けていました。

●スタッフのコメント

○開館以来、はじめて作家の方をお呼びしてのイベントが思い出深いです。トゥーツさんをはじめ関係者皆様のご協力のもと、展覧会とイベントが好評のうちに終了することができました。(MT)

●特別企画展

華麗なるヴェネチアン・ビーズの世界展

会期：2005年7月29日(金)～9月25日(日)
企画協力：株式会社キュレイターズ、北鎌倉小瀬美術館
入館者数：18,846人

古代ローマのビーズから、20世紀初頭に活躍したアメリカのジュエリーデザイナー、ミリアム・ハスケル氏の作品まで約150点のヴェネチアン・ビーズを展示しました。ビーズの繊細な模様や斬新な色彩に、時を忘れて見入ってしまう人も。小さなガラス玉に古人のロマンを感じた展覧会でした。

●関連イベント

●わくわくワークショップ
「ビーズで作ろう」
日時：会期中の毎週土日とお盆 10:00～15:30
参加者数：約800名
講師：ボランティアの方々のビーズブームに乗って、たくさんの方に参加していただきました。これを機に、ビーズを趣味にした人もいます？

●スタッフのコメント

○ガラス・ビーズの一粒一粒が世界中の愛情を受けながら悠久の旅の果てにこの展示室にある、ということが、私の密やかな感動となった展覧会でした。(E I)

主な普及事業

●ガラスの世界を楽しもう!!

わくわくワークショップ

開催日：毎月2日間(基本的に第3土曜とその次の日曜)
参加者数：約1,550人

ガラスをじかに触って素材の質感を楽しんだり、簡単なガラス加工を体験してちょっとしたアーティスト気分を味わったり、作品鑑賞とは違った視点で、ガラス素材に親しめる活動を行っています。H17年度は、“誰でも・気軽に・手軽に”をモットーに、毎月開催を実現し、内容の充実も図りました。

●内容の一部

「色エンピツで描く ガラス絵」：板ガラスを磨りガラス状にし、色エンピツで色を塗って完成させました *①
「ビーズで作ろう」：ガラスを含むいろんな素材のビーズを組みあわせて、アクセサリーやオーナメントを作りました
「オリジナル万華鏡作り」：使用済みのペットボトルを筒にし、ガラス片やセロファンなどを入れて作りました *②
「ガラスを削って描く ガラス・リッツェン」：電動リユーターでガラスを削って絵を描いて完成させました *③

●スタッフのコメント

○不器用な私に務まるの？と思いながらもスタッフとして加わることに・・・今では、みんなと一緒に作る楽しさを知り、この世界にはまっています。これからも、楽しいワークショップを企画します。(SN)
○「出来たぁ!!」と大きな声。満面の笑みを浮かべた顔を見ると、やって良かったと感じます。メニュー開発や試作品づくりに追われて大変ですが、事業を通じて親しまれる美術館を目指したいです。(KM)



●親子ワークショップ 「色彩のオブジェをつくろう」

日時：2005年6月19日(日) 13:30～16:30
参加者数：11組24名
カラフルなクラフト・ティッシュを使ったワークショップを行いました。手始めに平面作品を作り、最後には透明なボウルに紙を貼って色彩のオブジェを完成させました。



●とんぼ玉デモンストレーション 「ガラス玉はキャンバスだ」

日時：2005年8月14・28日 10:00～16:00
デモンストレーション：とんぼ玉彩、CHAMBERS
ガラス玉の制作工程を間近に見ていただくため、館内の一角にコーナーを設置したところ、予想以上の反響がありました。実演の強みを改めて知りました。



H17年度 ガラス美術館の足あと

4月 15日 中台共同TVドラマ「花の恋」ロケ地視察
22日 「トゥーツ・ジンスキー展」始まる
5月4・5日 子供の日企画「ガラスで遊ぼう」
15日 市民の方とティー・パーティー
29日 「色えんぴつで描く ガラス絵」
入館者150万人達成セレモニー

◆祝入館者150万人達成！

平成3年7月29日の開館から14周年を迎える目前、入館者150万人を達成しました。当日は、五月晴れの清々しい日で、150万人目の入館者となったご家族の方々の立会いのもとセレモニーを行いました。これを一つの区切りとし、新たに気を引き締めて、見てよかった、来てよかったと喜ばれる美術館を目指していきたいと思ひます。(NY)



6月 17日 トゥーツ・ジンスキー氏 市長表敬訪問
18日 「出張ワークショップ」(能登島)
トゥーツ・ジンスキー氏 スライドレクチャー
19日 トゥーツ・ジンスキー氏 親子ワークショップ

◆トゥーツ・ジンスキーさん来館

能登島滞在中の3日間はずっとフル回転。空港から美術館までの道中も、海岸のテトラポットをカメラにおさめていました。ワークショップでは、積極的に机を回ってアドバイスをしてくださいました。



7月 2日 6/19親子ワークショップで制作した作品を展示
16日 「色えんぴつで描く ガラス絵」
29日 「ヴェネチアン・ビーズ展」始まる
30日 「ビーズで作ろう」(9月まで毎週土日、お盆開館)
8月 2日 「リクエストワークショップ」(館内)
14・28日 とんぼ玉作りデモンストレーション

◆真夏のビーズ・イベント

太陽が照りつける真夏。美術館の中は、クーラーがきいてさぞかし涼しいだろうと思いきや、ビーズのアクセサリー作りや、とんぼ玉のデモンストレーションが行われ、参加者や見物客の熱気であふれていました。



9月 9日 中台共同TVドラマ「花の恋」ロケ地視察
30日 「ガラスのかたち展」始まる
10月15・16日 「削って描く グラス・リッツェン」
11月 1日 北川新館長 就任
6日 「出張ワークショップ」(能登島)
8日 石川県博物館協議会 展覧会見学会
「リクエストワークショップ」(館内)
13日 紀宮様祝ご成婚 パネル展示
19・20日 「オリジナル万華鏡作り」
23日 「出張ワークショップ 文化祭」(能登島)
E・コスタンチーニ氏の娘さんご夫妻来館

◆出張&リクエストワークショップ

近年、ワークショップに関する要望が増え出張&リクエストワークショップを行うようになりました。右写真は能登島文化祭での活動。H18からのこの事業が本格始動します！



2月 4日 「リクエストワークショップ」(館内)
17・18・23日 「ビーズで作ろう！クリスマスの小物」
1月 2日 「中国満洲のガラス 吉祥のうつわ展」始まる
2・3・4日 お正月企画「ガラスで遊ぼう」
21・22日 「ガラスで作ろう！犬グッズ」
22日 中台共同TVドラマ「花の恋」関連番組 撮影
2月 11・12日 「ガラスのスタンプ作り」
25日 「リクエストワークショップ」(館内)
3月 18・19日 「ガラスモザイクのフォトフレーム作り」